

第2学年 算数科学習指導案

活動日 平成14年 2月16日

授業者 村松まゆみ

活動場所 2年3組教室(校舎2階西)

1. 単元名 「10000までの数」 (全9時間)

2. 単元について

本単元では、10000までの数の構成、書き表し方、読み方、大小、順序について理解することをねらいとしている。また、3位数までの加法で千の位へくり上がる計算や、千いくつかから3位数をひく減法で、千の位からくり下がる計算ができることもねらいとしている。

児童は、2学年の1学期に1000までの数について、2学期には、3けたのたし算や3けたのひき算を学習した。何十、何百を10のいくつ分、100のいくつ分ととらえることや、計算原理や手順についても理解して、加減計算に取り組んできた。

本単元を通して、さらに数が拡張してきたことをふまえ、今までの学習をもとにして、1000のいくつ分というとらえ方のよさに気づかせたい。また、学習内容が定着するように、画面にある個人での練習問題を活用して、数の書き表し方、読み方、計算の仕方を説明していくことを大切にして、学級全体で学習内容を確認するようにしたい。

3. 願う子どもの姿

- ・3位数までの数の構成原理をもとにして、4位数の数え方、書き表し方、読み方が分かり、4位数までの数の順序、大小を理解することができる。
- ・3位数までの加法減法の計算方法をもとにして、3位数までの加法で千の位へくり上がる計算や、千いくつかから3位数をひく減法で、千の位から繰り下がる計算の筆算方法を考えて理解し、計算をすることができる。

4. 研究内容との関わり

○研究内容Ⅰに関わって(基礎・基本を確立するための、情報教育カリキュラムにのっとった単元指導計画の在り方)

本単元では、前時までの学習をもとにして、次の学習へ進む単元構成になっている。そこで単位時間の中で学習を確実に定着させるために、練習問題を全体で交流して書き方や読み方や計算の仕方を確認するようにする。

○研究内容Ⅱに関わって(基礎・基本の力をつける学習活動の在り方)

個人追求では、自分の考えをもつことができるようにしたい。その考えを仲間によく話すことで、学習のねらいが確かなものになると考える。そこで、全体の交流の前に、ペアで考えを確かめ合う活動を取り入れている。

○研究内容Ⅲに関わって(基礎・基本の定着を図る自己評価の在り方)

授業の終わりに画面による練習問題を位置付け、1時間の学習の定着を図りたい。確実に定着させるために、画面には、「位のへや」や「丸図」なども表し、考え方の筋道を振り返りながら説明できるようにする。

5. 単元指導計画

		ね ら い	主 な 学 習 活 動	自ら学ぶ姿の育成
第 一 次	1 ↓ 4	・1000までの数の表し方をもとに、10000までの数を書き表したり読んだりすることができる。 ・10000までの数について、数直線と数に対応させて、順序、系列、大小などがわかる。	・紙の枚数の書き方や読み方を考える。(4位数、空位のある4位数) ・練習問題を解く。 ・2400は100をいくつ集めた数か考える。 ・1000を10集めた数を考える。 ・数直線の□にあてはまる数を書いたり、数を表すめもりにしるしをつけたりする。	1000までの数の表し方と同じ考えで、1000のいくつ分というとらえ方をし て考えればよいことに気 付く。
	5 ・ 6 本 時 ・ 7	・3位数までの加法で、千の位へくり上がる計算ができる。 ・千いくつかから3位数をひく減法で、千の位からくり下がる計算ができる。	・千の位へくり上がるたし算の計算の仕方を考えまとめる。 ・千の位からくり下がるひき算の計算の仕方を考えまとめる。 ・千の位からくり下げて一の位のひき算をする計算の仕方を考えてまとめる。 ・練習問題を解く。	3けたのたし算のくり上 がりの考え方と同じよう に、千の位へくり上げれ ばよいことに気付く。 3けたのひき算のくり下 がりの考え方と同じよう に、千の位からくり下げ ればよいことに気付く。
	8 ・ 9	・10000までの数を数字で書いたり読んだりできる。 ・3位数の加法計算、4位数から3位数の減法計算ができる。	・今まで学習してきた方法を使って練習問題を行う。	今までの学習内容をも とにして問題を解く。

6. 本時の目標（7／9）

千いくつかから3位数をひく減法では、3位数までの減法の方法をもとにして千の位からくり下げて計算をすればよいことに気づき、筆算で計算をすることができる。

7. 本時の評価規準

表現・処理	千いくつかから3位数を引く減法で、3位数までの減法の計算の仕方をもとにして、筆算で計算をすることができる。
-------	---

8. 本時の展開

段階	学 習 活 動	研究に関わって ◇資料 ○評価 →支援												
つかむ	1. 問題が分かる。 1 3 5 4－4 3 1をやろう <前時との違いをみつける。> ・前は、(3けた)－(3けた)の引き算だったけど、(4けた)－(3けた)になった。 ・百の位が引けなくなっているよ。	◇学習の足跡の掲示												
ふ	2. 課題が分かる 千の位までの、繰り下がりがある計算の仕方を考えよう。													
か	3. 個人で追求し、自分の考えを仲間と交流する。 (筆算でできない子)丸図をかくて数を数える → 筆算で考える	○千の位から1を繰り下げることができたか。 ○千の位から繰り下げた1は、10になることが分かったか。												
め	<table><tr><th>千</th><th>百</th><th>十</th><th>一</th></tr><tr><td>1000</td><td>100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100</td><td>⑩⑩⑩⑩⑩⑩</td><td>①①①①</td></tr><tr><td></td><td>100 100 100 100 100 100 100 100 100 100</td><td>⑩⑩</td><td>①①①</td></tr></table>	千	百	十	一	1000	100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100	⑩⑩⑩⑩⑩⑩	①①①①		100 100 100 100 100 100 100 100 100 100	⑩⑩	①①①	→机間指導を通して、一人一人の考えを把握する。 →繰り下がりで詰まっている児童を個別指導する。(前時までの学習を振り返らせる)
千	百	十	一											
1000	100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100	⑩⑩⑩⑩⑩⑩	①①①①											
	100 100 100 100 100 100 100 100 100 100	⑩⑩	①①①											
る	①一の位の4－1をする。 ②十の位の5－3をする。 ③百の位の3－4は引けないので、隣の千の位から1かりてくる。 ④1000は10個100個なので、10と3をあわせて13－4をする。 ⑤千の位は百の位にひっこしたので、0になる ・自分の考えを仲間話す。 ・百の位が引けないときは、千の位から繰り下げればよいことが分かる。	→筆算で詰まっている児童は、丸図を使って考えるように助言する。												
まとめる	4. 練習問題に取り組む。 ① 1 2 3 6－3 1 4 ② 1 3 4 5－7 8 3 ③ 1 6 5 7－8 4 5 ④ 1 3 0 0－7 0 0 ⑤ 1 7 6 2－9 1 ⑥ 1 5 4 1－6 7 8 5. 学習のまとめをする。 同じ位で引けないときは、一つ隣の位から借りてきて、引き算をすればよい。	◇計算の仕方を説明した画面 ○計算の仕方を順を追って説明できたか。 →計算ができない児童には丸図で考えるように助言する。												